

「考える力」を伸ばすために、基礎・基本の定着を

算数少人数担当 山崎 良弘

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受けて、4月・5月は休校、6月は分散登校という変則的な形で新学年が始まりました。しかも、前年度、突然の休業要請により未履修の単元が出てしまいました。未履修分に関しては、朝学習を中心に補習を行っています。算数は他教科に比べて、知識・技能の積み重ねがとても大切な教科です。取りこぼしがないよう通常の授業に際しても、既習事項をしっかりと押さえながら学習を進めていきます。

さて、算数では、3年生から6年生は各学級に加えて少人数算数クラスを設けています。2学級の学年だと、3展開ということになります。他の教科ではこのような展開を行っていません。では、なぜ算数だけ少人数クラスを設けているのでしょうか。算数は、他教科に比べて学力差がとてもつきやすい教科であると言われていました。通常、学級の人数は30人以上が多く、学習につまずきのある子供へのサポートがままならないのが現状でした。そこで、もう1クラス設けて、1クラス当たりの人数を減らし、さらに、習熟度別に分けることによって手厚い指導ができるようにしています。

算数で大切なことは、「思考力・判断力」を育てることです。赤坂小でも「考える力」を育てることを目指し、日々の授業に取り組んでいます。しかし、「考える力」を発揮するためには、その礎となる基礎的・基本的な知識・技能などを身に付ける必要があります。そのために、3年生以上の算数少人数授業や、朝学習などでつまづきやすい箇所に立ち戻って指導するなどして、知識・技能の定着に力を入れているところです。

これからの学期末や夏休みを通して、1学期の学習のまとめをするとともに、学年を遡って復習をしっかりと基礎的・基本的な知識・技能を定着させる時間にしていただければと思います。赤坂小学校のホームページの「子供たちのための学習リンク集」に、「東京ベーシックドリル」のサイトがありますので、是非ご活用ください。

学習ルームより

学習ルーム 福島 陵

赤坂小学校の学習ルームは、今年度開室5年目を迎えました。今年度は巡回する学校が変更になり、拠点と赤坂小学校と、青山小学校を巡回して指導を行っています。

学習ルームは、週に1～2時間程度、個別学習や小集団学習を通して、自分の課題と向き合い「自分に合った学習方法」や「自分の思いや考えを伝える方法」などを学ぶ場所です。それぞれの課題や特性に合わせ、支援、指導計画を立てて学習を進めます。

さて、今年度は臨時休校や分散登校により、7月1日から学習ルームでの指導が再開されました。休校期間中、分散登校中は、いつもと違った環境の日々が続き、友達と会えないことや自由に外出できないことにストレスを感じていた子供たちも多いと思います。学習ルームでは指導開始に合わせて、子供たちのそうした心の変化に目を向けながら、気持ちに寄り添った指導を進めていきたいと考えています。

学習ルームの利用の有無に関わらず、学校生活の中で行動や対人関係、学習の様子など、お子さんの成長や発達について気になることがありましたら、お気軽に学習ルームまでご相談ください。

図書室より

赤坂小図書スタッフ

子供たちに限らず、私たちの生活はインターネットと切り離すことは難しくなっています。そして、ラインに代表されるSNSの普及で、私たちのコミュニケーションは「声」から「文字」にシフトしているように思います。しかも、とても短い発話型の短文で、絵文字やスタンプで感情や音声の勢いなどの表現をフォローしています。説明文を書こうとしても、小さな携帯の画面に収まり、読みやすく、誤解のない文章を書くことは、大人にとっても至難の業、ましてや子供にとっては意識する以前の問題でしょう。そこで、様々な誤解や問題が起きるのは、現代の子供たちが社会性を身に付けるために、通過しなくてはならない事の一つなのではないかと思えます。

そのような文字での高いコミュニケーション能力を求められる現代の子供たちに、語彙力を増やすための読書はとても重要です。言葉は生涯をかけて積み重なり、本人の個性でじっくりと熟成されるものです。短い文章にどのくらい個性や自分の主張を正しく盛り込み、より好意的に正確に伝えられるのか。これは将来、子供たちにとって重要な素養となることは間違いありません。言葉がコミュニケーションツールである限り、第2外国語を学ぶにあたっては、母国語での語彙や表現力の蓄積が重要なベースになります。今の時期の読書体験は畑の土壌改良のようなものです。読むことでどんどん栄養を蓄え、将来の充実した実りに備えてほしいと願っています。